

平成30年度学力向上対策

現状と課題

☆確かな学力の向上

- 子供が主体的に学ぶ授業実践が不十分である。
- 読む力と書く力が十分身に付いていない。
- 家庭学習（予習・復習）が定着していない。
- 休日に全く勉強しない子供の割合が高い。
- 学校図書館や地域の図書館に全く行かない子供の割合が高い。

☆教員の資質・能力の向上

- ベテラン教員の大量退職に伴う若手教員の大量採用により、経験豊富な教員からの若手教員への知識・技術の伝達が困難になっている。

目標

【成果指標：平成31年度全国学力・学習状況調査結果】

- 教科に関する調査結果で、すべての教科の県平均正答率が全国平均以上になる。
- 次の児童生徒質問紙調査結果が、全国の割合と同程度になる。
 - ・「自分たちで立てた課題等に対して、自ら考え自分から取り組んでいる」と思う子供の割合
 - ・「400字詰原稿用紙2～3枚の感想文等を書くことが難しい」と感じる子供の割合
 - ・予習、復習をする子供の割合
 - ・休日に全く勉強しない子供の割合
 - ・学校図書館や地域の図書館に全く行かない子供の割合

取組

1 「チーム学校」としての組織力向上

- 「スクールプラン」「学力向上推進プラン」に基づいた学校運営の促進
- 地方別小中学校長研修会の実施による学習指導の改善・充実

2 学び続ける教員の育成

- 戦略的な学校経営力向上に向けた、教頭の県外派遣の実施
- 「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を踏まえた教員研修の実施
- ミドルリーダー育成のための、中堅教員の県外派遣及び長期研修員事業の実施
- 若手教員の指導力向上に向けた、フォローアップ事業の継続

3 基礎学力の定着

- 課題の大きい学校への重点的な指導・支援
- 市町村教育委員会と連携し、学力向上をめざした指導・支援の実施
- 『国語マスター問題集』『理科マスター問題集』の徹底活用の促進
- 評価問題、評価テスト、チャレンジ確認シートの徹底活用の促進
- 県学習到達度調査の実施による基礎学力の点検

4 子供が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善

- 「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」の徹底指導
- 『国語授業事例集(DVD)』『理科授業事例集(DVD)』及び『動画研修パッケージ』の活用促進
- 学校図書館の開放と活用、ICT活用の促進
- 学力向上推進に係る研修会（小5、中2担当者）の実施による授業改善の促進
- 地方別授業づくり研究会の活性化

5 補充学習の強化と家庭学習の習慣化

- 補充学習プログラム(夏季休業)実施によるつまずき解消
- 宿題としての予習・復習（自主学習）の徹底指導

具体的な取組について

1 「チーム学校」としての組織力向上

○「スクールプラン」「学力向上推進プラン」に基づいた学校運営を促進し、学校の組織力向上と学力向上を図ります

各種調査結果やデータ等に基づき、学校評価と関連付けて「スクールプラン」を作成・公表するとともに、「学力向上推進プラン」を実行するよう指導・支援する。

○地方別小中学校長研修会を実施し、学習指導の改善・充実等に向けた組織的・計画的な取組を促進します

全国学力・学習状況調査結果の分析から、学習指導の改善・充実等に向けた組織的・計画的な取組を進めるよう指導・支援し、学力と学校経営力の向上を図る。

2 学び続ける教員の育成

○戦略的な学校経営力向上事業により、突破力のある管理職を育成します

学校の課題を改善する力をもった管理職を育成するために、5名の教頭を福井県に2週間派遣し、研修成果を県内に普及することで、学校経営力の向上を図る。

☆地方別教頭会、公立小中学校長研修会等で研修成果を報告

○「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を踏まえた教員研修を行い、校長及び教員の力量向上を図ります

校長及び教員のキャリア段階に応じた教員研修を実施し、授業実践力・生徒指導力・マネジメント力の向上を図る。

☆教育経営研修、新任教務主任研修、中堅教諭等資質向上研修、初任者研修、2年次・3年次研修

○学校・地域のリーダーとなる「学力向上コアティーチャー」の養成及び「長期研修員研修」を実施し、授業改善を進めます

県内各地方で中核となる教員16名を秋田県に1週間派遣し、その成果を所属校及び地方別研修等で報告し普及する。

☆教育支援事務所、教育センター学びの丘、市町村教育委員会等の主催する研修会等で研修成果を報告

○フォローアップ事業を継続し、若手教員の指導力向上をめざします

優れた教育実践力をもつ退職教員を、学力定着に課題を抱える小・中学校（約45校）に派遣し、学校の取組や若手教員の授業力や学級経営力の向上を支援する。

☆5月から2月まで、1校あたり14回程度実施

3 基礎学力の定着

○課題の大きい学校への重点的な指導・支援を行い、学力の定着を図ります

義務教育課・教育センター学びの丘・教育支援事務所・市町村教育委員会の各指導主事がチームを組み、課題の大きい学校に対して継続的に指導・支援する。

☆重点指導：10月から年度末まで、1校あたり5回程度実施

○市町村教育委員会と連携し、学力向上をめざした指導・支援を行い、学力の定着を図ります

学力向上をめざした取組を進めている学校を、市町村教育委員会からの推薦を受け、各地方3校程度、年間3回の指導・支援を行う。

☆4月から年度末まで5地方×3校×3回 45回程度実施

○『国語マスター問題集』『理科マスター問題集』を繰り返し活用することを促進し、学力の定着を図ります

教科書に対応した問題集を、授業・家庭学習・補充学習等で効果的にかつ繰り返し活用し、読む力と書く力、問題を解決する力の確実な定着を図るよう指導・支援する。

○評価問題、評価テスト、チャレンジ確認シートの活用を促進し、継続的に基礎学力の定着を図ります

チャレンジ確認シートの活用を促すとともに、全国学力・学習状況調査実施後に課題克服のための評価問題を、県学習到達度調査実施後に課題克服の状況を把握するための評価テストを配信し、児童生徒一人一人の学力の定着を図る。

☆【評価問題】 対象学年：小5・6、中1・2 教科：国、算・数、理、(*英) 時期：7月・9月
問題数：各5問程度 ※英語は中2のみ

☆【評価テスト】 対象学年：小5、中2 教科：国、算・数、理、(*英) 時期：2月
問題内容：平成30年度までに実施した全国学力・学習状況調査と県学習到達度調査で課題のあった問題

☆【チャレンジ確認シート】平成30年度までに実施した全国学力・学習状況調査問題

○県学習到達度調査を実施し、基礎学力の向上を図ります

当該学年までに学習した基礎的・基本的な学力の定着状況を把握し、授業改善や個に応じた指導に生かすよう指導・支援する。

☆対象学年：小4・5、中1・2 教科：国、算・数、理（小5・中2のみ）時期：10月17日（水）

4 子供が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善

○「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」を徹底し、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざします

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」を徹底する。

○『国語授業事例集(DVD)』『理科授業事例集(DVD)』及び『動画研修パッケージ』の活用を促進し、授業改善を進めます

教員の授業力を向上させるため、主体的・協働的な学びの実現をめざした授業づくりの指導用映像資料(DVD)や動画研修パッケージの活用を促進するための地方別研修会を実施する。

○学校図書館の開放と活用、ICTの活用を促進し、子供が主体的に取り組む授業をめざします

学校図書館を、常に活用できる環境に整えるとともに、学校図書館やICTの効果的な活用を促し、問題解決的な学習の充実を図る。

☆学校図書館担当教員、学校図書館司書、学校図書館ボランティア等の実施

○学力向上推進に係る研修会（小5、中2担当者）を実施し、全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた授業改善を促進します

全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた学習指導の改善・充実となるよう、小5、中2の担当者を対象とした研修を実施し、学力向上を図る。

○「地方別授業づくり研究会」の活性化を図り、学力向上のためのネットワークづくりを進めます

県内すべての教員が連携して学び合える環境を整え、地方の学力の底上げを図る。

5 補充学習の強化と家庭学習の習慣化

○補充学習プログラムを提供し、学習のつまずきを解消します

放課後だけでなく長期休業等を利用した補充学習を実施し、学習のつまずきを解消し、学力定着を図る。

☆夏季休業中の補充学習例を動画で提供

対象学年：小4 期間：夏季休業中3日間（2時間程度） 教科：国、算

○予習・復習を自主的に取り組めるよう、家庭学習の手引き等の効果的な活用を促進し、家庭学習の習慣化を図ります

家庭学習の手引き等を効果的に活用し、メディアと関わる時間を減らすとともに、予習・復習を宿題（土・日を含む。）として出すなど学年に応じた家庭学習の取組により、家庭学習の習慣化を図る。